

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	6	大学等名	福岡工業大学
テーマ	テーマ I アクティブ・ラーニング		

### 【総括評価】

**B**：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・効果的・効率的なアクティブ・ラーニング（AL）においては、一定の成果としての学生の変容が確認されていることは評価できる。また、教員参加の広がりにおいては、本大学のカリキュラムに適した授業スタイルとして反転授業が普及するなど、固有な文脈に合わせた取組の進展が認められることも評価できる。

<改善を要する点>

- ・教員の動機付けで重要な役割を担っているファカルティディベロッパー（FDer）の認定基準が不明である。ALの全学展開をリードし、本大学の教授法の質的転換の実現を先導する存在として、何をもって本大学におけるFDerと見なされるのかなど、客観的な基準を明示することが必要である。そうした基準を明確にすることが、結果的に本事業の成果測定に有効なエビデンスを得ることにつながると考えられる。
- ・学生一人当たりのAL科目に関する授業外学修時間の実績値の改善に関しては、まずは目標値と大きく乖離した要因分析を経た課題の特定や改善方策の明確化を行うことが必要である。また、クラス・サポーター（CS）の育成に関しては、「育成」とうたっている以上、本事業におけるCSの役割や求められる知識・スキル・態度、養成における到達目標、具体的な育成過程等を明示する必要がある。
- ・本大学における「AL型授業」の要件と「実験・実習、実技やゼミ」との関係が不明瞭である。「AL型授業」の同定は、先駆的な取組の全学的水平展開や学外への波及の局面において非常に重要な論点となりうるため、補助期間中期での十分な検討が必要である。
- ・FD・SDの実施については、ややFDの取組に偏りが認められる。各種FDの取組に職員がどのように関わっているのかをより明確化するとともに、SDの実質的な取組を可視化することが必要である。
- ・本大学の人材育成目標（「自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような人材（実践型人材）の育成」）の達成に向けて、本事業がいかに寄与したのか（しうるのか）を問う視点を持ちながら、これまで積み重ねてきた個々の取組を総合的に評価することが必要である。また、本事業開始時期に入学した学生が学士課程教育を修了するタイミングを見越して、点検・評価関連の取組の開発を早急に行うことが必要である。